

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

例えば、講演会などで、司会者が、「お話しくださる先生は……」と言うのと、「お話しいただき先生は……」と言うのでは、どのような印シヨウを受けますか？

「お話しくださる」と「お話しいただく」という敬語について考えてみます。

まず、「お話しくださる」は、「話してくれる」の尊敬表現。相手を直接敬う敬語です。あなたが私に話してくれる、つまり、相手が進んで行う行為になります。

一方の「お話しいただく」は、「話してもらう」の謙讓表現。こちら側がへりくだって、相手を敬う敬語です。私があなたに話してもらう、つまり、<sup>(1)</sup>主語は「私」で、相手に行為を依頼しているのですね。

どちらもその行為をする人を敬っているのです。まちがいはありません。ただ、立場によって違和感が生まれてくるということは言えそうです。

司会者（主催者）側からすると、「先生に依頼して話してもらう」という意識が強いため、「お話しいただく」という表現が多くなるでしょう。しかし、「お話しいただく」だと先生だけを敬うので、司会者も聴衆もへりくだった立場になります。ですから、聴衆側は自分たちの立場も下げられた気がして、違和感があるかもしれません。聴衆の立場では、「お話しくださる」の方がふさわしい言い方と言えそうです。<sup>(2)</sup>誤解がないように、「今日のお話は〇〇先生です」という表現もできるのかもしれませんがね。

確かに<sup>(3)</sup>最近、「お話しくださる」よりも「お話しいただく」の方が多く使われる傾向にあるようです。

例えば、「結<sup>(2)</sup>コウなものをお送りくださり、ありがとうございます」より、「結コウなものをお送りいただき……」という人の方が多いのではないのでしょうか？

自分の方からお願ひして送ってもらったかのように「いただく」を用いることで、こちら側の恐縮感や感謝

の気持ちを表せ、それによって恩恵を受けたことをより強く表す効果が生まれると言います。

「お話しくださる」は「**I**」の尊敬表現、「お話しいただく」は「**II**」の謙讓表現。どちらもその行為をする相手を敬う表現です。でも、どちらが適切か、どちらが丁寧かという判断や感じ方は、人によって変わってくるのかもしれませんが。

「お話し上がりください」は二重敬語ではないですか？とお便りをいただきました。

確かに、「召し上がる（尊敬語）」+「お話しください（尊敬表現）」となるので、二重敬語ですね。

「召し上がってください」だけでいいのです。「召す」は、相手が身に取り入れたり、着けたりなど、<sup>(からだ)</sup>身体の一部に関連する動作、例えば、「着る・履く・（風呂に）入る・呼ぶ・（年を）とる・（風邪を）ひく・（気に）入る・食べる・飲む」などに共通して使う尊敬語です。

また、その中で「食べる・飲む」だけは、「召し上がる」という言い方もあります。ご飯の「飯」は、「食べる」の尊敬語「召す」が名詞化し、「召し上がるもの」からできた言葉です。本来は「飯」だけで敬意が込められていたのですね。

ところが、「召し上がる」に「お話しください」を付けた表現、よく耳にしませんか。

この表現について、文化庁が平成七年度『国語に関する世論調査』で調査したところ、八十五%以上の人が、気にならないと答えました。

その後、平成十一年度に行われた同じ調査で、本製品のお話し上がり方<sup>(かた)</sup>の表現をどう思うかという調査にも、およそ六十八%の人が気にならないという回答でした。

この表現は、本来は過剰な尊敬表現ですが、抵抗を感じる人が少なくなっているのですね。そこで、文化庁で

も、<sup>(3)</sup>「テ」着し始めていると見ているようです。

どうして二重敬語を使ってしまうのでしょうか。

動詞を尊敬表現にするときは、「一般動詞に「おくなる」「おくください」のような言葉を使うのが<sup>(4)</sup>「一般的な形」です。

ところが、すでに尊敬表現になっている「召し上がる」を使っていくうちに、もっと丁寧におおという気持ちが働き、他の尊敬表現と同じように「お〜ください」を付けて、「お召し上がりください」と言ってしまうのかもしれないね。

同じような例で、「来る」の尊敬語「見える」があります。

「先生が見える」を、さらに丁寧にして「先生がお見えになる」と言うのですね。これも二重敬語ですが、<sup>(5)</sup>今では認められています。

敬語は、使っていくうちにどんどん丁寧になっていく傾向があるんですね。

「それでは、食べてみたいと思いますーす！」

この使い方を分解して考えてみると、「〜したい」は願望の助動詞で、「〜思う」は推測や不確かさを表しています。

この二つを組み合わせた「〜したいと思います」は、これから先のことを表す状況で使えばまちがいはありません。しかし、<sup>(6)</sup>「〜します」と言い切って差し支えないときに、「〜したいと思います」を多用すると、耳障りだったり、おかしいと感じてしまいますよね。

話し手は、言い切り表現ばかりだと、聞き手にきつい感じや、ぎこちない印シヨウを与えると考え、語尾を和

らげようとして、つい使ってしまうのかもしれないね。

例えば、「これから会議を始めます」と、<sup>(7)</sup>「これから会議を始めたいと思います」の表現では、二番目の使いの方が、なんとなく丁寧聞こえませんか？

「始めたいと思います」が皆さんよろしいでしょうか？といった意味が込められている感じがしますよね。より丁寧な言い方にも聞こえ、また自分の主張を遠回しに表現しやすい言葉なのかもしれません。

日本語には、敬語を使わず、それと同じような効果を上げる言い回しとして、「あの人」を「あちら」、「これ」を「こちら」などとする婉曲表現があります。同じように、自分の主張を遠回しに言うことで、相手の気分を損ねずにこちらの言い分を伝える効果があるのではないのでしょうか。

しかし、「<sup>(8)</sup>感謝したいと思います」は、いかがでしょうか。

感謝するのは先のことでしょうか？ 違いますね。ありがたいという気持ちは今その瞬間のことですから、この表現には違和感がありますね。

「本当に感謝する気持ちがあるの？」と思ってしまう方もあるのではないのでしょうか。

これはもはや決まり文句のようになっていますが、この場合は、素直に「ありがとうございます」と言った方が、相手の心に届きますよね。

どういう表現を使えば相手の心に響くかを考えながら、生きた言葉を使いたいですね。

(NHKアナウンス室編『サバを読む』の「サバ」の正体)

問1 線①②③と同じ漢字を使うものを次のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 印シヨウ

- |   |               |   |             |
|---|---------------|---|-------------|
| ア | 身元をシヨウ会する。    | イ | 仮説を検シヨウする。  |
| ウ | 日本文化を伝シヨウする。  | エ | 気シヨウ予報士になる。 |
| オ | 残りの日程をシヨウ化する。 |   |             |

② 結コウ

- |   |             |   |               |
|---|-------------|---|---------------|
| ア | 音楽を愛コウする。   | イ | 健コウに注意して過ごす。  |
| ウ | 数学のゴウ習を受ける。 | エ | 地域の発展にゴウ績を残す。 |
| オ | 文章のゴウ成を考える。 |   |               |

③ テイ着

- |   |              |   |                |
|---|--------------|---|----------------|
| ア | 新しい案をテイ示する。  | イ | 常識が根テイからくつがえる。 |
| ウ | 安さでテイ評のある店。  | エ | 裁判所に調テイを申し立てる。 |
| オ | 無理のない行テイを組む。 |   |                |

問2 線(1)「主語は『私』で、相手に行為を依頼している」とありますが、「お話しくださる」ではどうなりますか。その説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 主語は相手になり、相手が行為をすることになる。
- イ 主語は相手になり、相手が行為を依頼することになる。
- ウ 主語は「私」になり、「私」が行為をすることになる。
- エ 主語は「私」になり、「私」が行為を依頼することになる。

問3 線(2)「誤解」とは、どのような「誤解」ですか。その説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 司会者が、自分よりも講演者や聴衆のほうが立場が上であると考えているという誤解。
- イ 司会者が、講演者や自分よりも聴衆のほうが立場が上であると考えているという誤解。
- ウ 司会者が、聴衆よりも講演者や自分のほうが立場が上であると考えているという誤解。
- エ 司会者が、聴衆や自分よりも講演者のほうが立場が上であると考えているという誤解。

問4 ——線(3)「最近、『お〜くださる』よりも『お〜いただく』の方が多く使われる傾向にある」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「お〜いただく」というへりくだった言い方のほうがこちら側の恐縮感や感謝の気持ちを強く伝えられるので、相手に対してより丁寧な言い方だと思ふから。
- イ 「お〜いただく」というこちら側の恐縮感や感謝の気持ちを強く表す言い方のほうが、相手に誤解されずにこちら側の気持ちをうまく伝えられると思ふから。
- ウ 「お〜いただく」という間接的に相手を敬う言い方のほうがこちら側の恐縮感や感謝の気持ちを強く表すことができるので、相手に好感を持たれると思ふから。
- エ 「お〜いただく」という相手を主にした言い方のほうが強い敬意を表すことができるので、こちら側の恐縮感や感謝の気持ちを表すのに都合がいいと思ふから。

問5 

I	II
---	----

にあてはまる言葉の組み合わせとしてもっとも適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア I くれる      II くれる      イ I くれる      II もらう
- ウ I もらう      II くれる      エ I もらう      II もらう

問6 ——線(4)「一般的な形」とありますが、「一般的な形」の例として適切でないものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 戦争体験をお話しくださる。      イ 気をつけてお帰りください。
- ウ 美しい着物をお召しになる。      エ 市長がお着きになりました。

問7 ——線(5)「今では認められています」とありますが、「先生がお見えになる」という言い方が認められているのはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 文化庁が世論調査の結果をもとに、望ましい言い方であると判断したから。
- イ 本来の言い方よりもさらに丁寧な言い方なので、だれもが好感を持つから。
- ウ 先生と呼ばれる職業の人に二重敬語を用いるのは、古くからの習慣だから。
- エ 多くの人が使うようになり、抵抗や違和感を感じる人が少なくなったから。

問8 ——線(6)「『〜します』と言いつつ差し支えないときに、『〜したいと思います』を多用すると、耳障りだったり、おかしいと感じてしまいますよね」とありますが、「『〜します』と言いつつ差し支えないとき」に、~~~~線「食べてみたいと思いま〜す！」は、どのように言いかえたらよいですか。もっとも適切な言い方を答えなさい。

問9 ——線(7)「これから会議を始めたいと思います」という言い方にはどのような利点がありますか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ひかえ目な表現で会議を始めると、参加者もたがいに相手を思いやる発言を心がけるようになる点。
- イ 言い切り表現だけでなくやわらかい言い方を交えることで、会議の張りつめた空気をやわらげられる点。
- ウ 確認して会議を始めるといいう言い方になるために、参加者の気分を害することなく会議を始められる点。
- エ はっきり言い切るよりも丁寧な言い方に聞こえるため、参加者の反発をまねかずに会議を進められる点。

問10 ——線(8)「感謝したいと思います」という言い方がよくないのはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 丁寧な言い方ではあつてもすでに決まり文句になっているので、真心のこもった感謝の気持ちとして相手に伝わりにくいから。
- イ 感謝することに願望や推測の意味が加わった言い方になるので、本気で感謝してはいないと思われるってしまうことにもなるから。
- ウ その場で感謝するべきであるのにその意思表示を先送りする言い方になってしまいうので、相手を失望させてしまうことになるから。
- エ 自分の気持ちを遠回しに言うことになるので、相手との間にへだたりが生じ、感謝の気持ちが素直に相手の心に届かなくなるから。

問11 言葉に対する筆者の考え方としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。  
 ア 本来はまちがった言い方がより丁寧な言い方として使われるようになってきた。言葉は常に変化していくものなので、新しい言い方を身につけていくことが大切である。

イ 同じ言い方でも使う場面によって相手が好感を持ったり不快に感じたりする。話すときにはその時その時で相手がどのように受け取るかをよく考えながら言葉を選ぶ必要がある。

ウ 日本人は相手を敬ったり自分の主張を遠回しに言うことでより丁寧な言い方を心がけてきた。しかしこれからは、はっきりと自分の主張を相手に伝えるように心がけるべきだ。

エ 二重敬語や婉曲表現は過剰な尊敬表現として抵抗を感じる人も少なくない。しかし、相手に丁寧な気持ちを伝える日本独特の表現として、敬語表現はこれからも大切にすべきだ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文にいたるまでのこと

岡田虎之助は剣の道を会得しようと別所内蔵允のもとをたずねるが、内蔵允は長旅に出ていて留守だった。留守宅には同じく内蔵允に教えを受けようとする侍たちが泊まっていた。虎之助は近所の老農夫・閑右衛門とその孫娘・奈美と知り合い、農作業を手伝いながら閑右衛門の家で内蔵允の帰りを待っていた。

その明るく早朝であった。声高な人の話し声に眼を覚まされた虎之助は、声の主が別所家の留守宅の弥助老人だと分かったので、急いで着替えをして出た。もしかすると内蔵允の消息があったのかもしれない、そう思ったのである。手早く洗面を済ませて戻ると閑右衛門が独り縁側で茶をすすっていた。

「おはようございます、いま弥助どのが見えていたのではありませんか」

「いま帰ってゆきました」老人はおかしそうに喉で笑った、「……おもしろい話を聞きましたよ、お留守宅にいたあの浪人どもが、ゆうべ夜中に銭を掠って逃げたということでございます」

「……銭を掠って」虎之助は眉をひそめた。

「留守宅に修業者が来て、路用に困る者があつたら自由にもたせてやれと、通宝銭がひと箱置いてあつたのです、今日まで一文も手を付けた者は無かつたのですが、あのやまだちども、それを掠って逃げたのださうでございます」

「なんと、見下げ果てたことを」

「いや、あれがこの頃の流行でございますよ」老人は茶碗を下に置き、眼を細めて栗林の方を見やりながら云つた、「別所先生を尋ねて来るお武家方で、本当に修業をしようという者がどれだけあるか、多くは先生から

※4 伝書を受け、それを持って出世をしよう、教授になつて楽な世渡りをしよう、そういう方々ばかりです」

(2) それは先生がおっしゃったのか

(3) 百姓にも百姓の眼がございます」老人は静かに片手で膝を撫でながら、「……たとえば岡田さま、あなたにお伺いいたしますが、あなたさまはなんのために先生を尋ねておいでなさいました」

「それはもちろん、先生に道の極意をたずねたいためだ、刀法の秘奥を伝授して頂くためだ」

「ふしぎでございますな」老人は雲へ眼をやつた、「……私どもの百姓仕事は、何百年となく相伝している業でございます、よそ眼には雑作もないことのように見えますが、これにも農事としての極意がございます、土地を耕すにも作物を育てるにも、これがこうだと、教えることのできない秘伝がございます、同じように耕し、同じ種を播き、同じように骨を折つても、農の極意を知る者と知らぬ者とは、作物の出来がまるで違つてくる、……どうしてそうなるのか、……口では申せません、また教えられて覚えるものでもございません、みんな自分のあせと経験とで会得するより他にないのでございます」

「岡田さまは若く……」と老人はひと息ついて続けた、「……力も私より何層倍かお有りなさる、けれども鋤を執つて大地を耕す段になると、あなたさまには失礼ながらこの老骨の半分もお出来なさらぬ、行って御覧なさいまし、あなたさまが耕したところは、端の方からもう草が生えだしています、渾身の力で打ち込んだあなたさまの鋤は、その力にもかかわらず草の根を断ち切つていなかったのでございます、どうしてそうなるのか、どこが違うか、口で申せばたやすいことでございます、けれど百姓はみな自分のあせと血とでそれを会得いたします」

「先日、岡田さまは私の言葉を咎めて、兵法は無用のものかとおっしゃいました」

老人は暫くして再び続けた。

「おおせの通りです、もし耕作の法を人の教えに頼るような百姓がいたら、それはまことの百姓ではありません、

いずれの道にせよ極意を人から教えられたいと思うようでは、(4) まことの道は会得できまいかと存じます、錢を掠つて逃げたあの浪人どもが、そのよい証拠ではございませんか」  
虎之助の背筋を火のようなものが走った。言葉や姿かたちではない、静かな、**b** 噛んで含めるような老人の声調を聴いているうちに、彼はまるで夢から覚めたように直感したのだ。

——この人だ、別所内蔵允はこの人だ！  
そう気づくとともに、虎之助は庭へとび下りて、土の上へ両手をついた。

「先生……」  
老人は黙って見下ろした。

(5) 虎之助は全身の神経を凝集してその眼を見上げた。かなり長いあいだ、老人は黙って虎之助の眼をみつめていたが、やがてその唇に……と微笑を……**※5** 浮めた。

(6) 内蔵允は留守だ」

「先生！ 虎之助は膝を **※6** にじらせた。

「いやいや、もう二度と帰っては来ないかもしれない、それでもなおここに待っているか、虎之助」  
(7) 私に百姓が出来ましようか」

虎之助は悦びに顫えながら云った。老人は愛情の籠った温かい眼で見下ろしながら、しずかな力のある声で、「道は一つだ」と云った、「……刀と鍬と、執る物は違っても道は唯一つしかない、これからもなに一つ教えはせぬぞ、百姓は辛いぞ」

「先生……」  
虎之助は涙の溢れる眼で、瞬きもせず老人の面を見上げた。師を得た、真の師と仰ぐべき人を得た、自分の行く道は決まった。今日まで四六時ちゅう縛られていた、「兵法」の殻から、彼はいま **※7** 闊然と脱出した気が

する。道は一つだ、**※8** 無窮に八方へ通じている、それが大きく、のびのびと眼前に展開されたようだ、そして彼はその大道の一端に、しっかりと立ち上がることできた自分を感じた。  
(8) お祖父さま、岡田さま」奈美が奥から出て来てそう云った、「……御膳のお支度が出来ました」

(山本周五郎「内蔵允留守」より。出題にあたり、原文の表記を一部改めました。)

(注) **※1** 掠って……うばって。

**※2** 路用……旅行の費用。

**※3** やまだち……山中で旅人などをおそう盗賊。山賊。

**※4** 伝書……その道の秘伝を記した書。

**※5** 浮めた……浮かべた。

**※6** にじらせた……すわったままじりじり動かした。

**※7** 闊然……心の迷いなどがたちまち消え去る様子。

**※8** 無窮……無限。

問1 〳〳〳線 a 「眉をひそめた」、b 「噛んで含める」は、どのような意味ですか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 眉をひそめた

- ア 不快な思いで顔をしかめた
- イ 同情の思いで顔をくもらせた
- ウ 心配のあまり顔色がかわった
- エ おどろきのあまり顔色を失った

b 噛んで含める

- ア 理解しやすいよう手みじかに説明する
- イ たくみな話術で考えを改めさせる
- ウ 分かりやすくいいねいに言い聞かせる
- エ おだやかな口調で心をなごませる

問2 ——線(1)「あれがこの頃の流行でございますよ」とありますが、「この頃の流行」とはどのようなことですか。その説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 武士がすっかり道徳心を失ってしまっていること。
- イ 武芸を学んでも意味がないと考える武士が増えたこと。
- ウ 武士のにせものが武士のふりをして世渡りをしていること。
- エ 目的をとげるために手段を選ばない武士ばかりであること。

問3 ——線(2)「それは先生がおっしゃったのか」とありますが、このときの虎之助の気持ちの説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 先生が刀法の修行者を非難するはずがなく、百姓の勝手な言い分にすぎないとあざ笑う気持ち。
- イ 百姓が見識のある考えを持てるはずがなく、先生の言った言葉にちがいないと確信する気持ち。
- ウ 百姓がなげくのはもっともだが、先生ならば異なる見方をするかもしれないと期待する気持ち。
- エ 先生の言葉であれば許せるが、百姓が剣の修行者を否定するのは許せないといきどおる気持ち。

問4 ——線(3)「百姓にも百姓の眼がございます」とありますが、このときの老人についての説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 虎之助の百姓を見下した態度に対して農民の考えだと断りつつ、何の雑作もない作業に見える百姓仕事にも何百年もの間受けつがれた業があると不満をのべている。
- イ 農事にも極意があることを述べて、極意を知る者とそうでない者では農作物の出来ばえがまったく異なるものであるという自分の考え方を冷静に語ろうとしている。
- ウ 武芸者である虎之助と比べても農作業の実力ならば年老いた農夫の方が上であることを見せつけて、虎之助は農事から多くのことを学ぶべきだと説こうとしている。
- エ 近ごろの武士は農業の重要さを十分理解せずに刀法に夢中になっていると批判し、虎之助のような有能な若者が農業で成功する方法をじっくり教えようとしている。

問5 ——線(4)「まことの道は会得できまいかと存じます」とありますが、次の文は虎之助と老人の「道」についての考えを説明したものです。1・2に入るもっとも適切な言葉をそれぞれ本文中より十字以上、十五字以内でぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

虎之助は「道」を 1 と考えているが、老人は「道」を 2 ものと考えている。

問6 ——線(5)「虎之助は全身の神経を凝集してその眼を見上げた」とありますが、このときの虎之助の気持ちの説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 老人が内蔵允であると直感したが、内蔵允であることを老人自ら名のり出るように促す気持ち。

イ 老人が内蔵允であると確信して、なんとしてもこの老人の弟子にしてみらいたいと必死の気持ち。

ウ 老人の正体が内蔵允であると聞かされ、これまで老人を見下してきたことを心からわびる気持ち。

エ 老人の本当の姿が内蔵允だと知り、自分も武士の身分を捨てて百姓になろうとかくごする気持ち。

問7 ——線(6)「内蔵允は留守だ」とありますが、この言葉を通じて老人が示したかったことは何ですか。その説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現在自分は武士の身を捨て農民として生きていることと、剣の道は教える気がないということをはっきりと虎之助に示している。
- イ 武芸はまことの道ではないことと、武士であった過去にはふれられたくないという気持ちを持っていることとを虎之助に示している。
- ウ 兵法はもはや無用なものになってしまったことと、これからは百姓として生きていくべきであることを虎之助に示している。
- エ 道を修めるのに武士と農民の区別はないことと、どちらの道も自らの努力で会得するものであることを虎之助に示している。

問8 ——線(7)「私に百姓が出来ましようか」とありますが、このときの虎之助の気持ちを説明したのもっとももっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生きるべき道は一つであり、農業を極めることが兵法を極めることに通ずると思った。
- イ 武芸にこだわっていた今までの自分がまちがいで、農業こそが本当の道だと悟った。
- ウ 真の師と思った人の選んだ道を歩むことが、弟子として当然のふるまいだと感じた。
- エ 自分に進むべき道を示してくれた真の師に従って、自らも道を究めようと考えた。

問9 ——線(8)「お祖父さま、岡田さま」奈美が奥から出て来てそう云った、『……御膳のお支度が出来ました』とありますが、この一行が文章にもたらす効果を説明したものとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 虎之助が朝食までのわずかな時間でまことの道に目覚めたように、短時間で人間は変わることができることを明らかにしている。
- イ 武芸を捨て農業の道を選んだ虎之助の気持ちの変化には、虎之助の奈美へのほのかな思いがあったことを暗示している。
- ウ 虎之助が老人の正体に気づいて弟子入りをするという劇的な場面から、もとのおだやかな日常世界へ読者を導いている。
- エ 虎之助をまことの道に目覚めさせることが内蔵允の本当の目的であり、それが予定通りに実現したことを示している。



問 8 問 6 問 5 問 4 問 2 問 1

問 9 問 7 問 3 a

b

2 1



問 11 問 9 問 8 問 6 問 4 問 2 問 1

問 10 問 7 問 5 問 3 ①

②

③

受験番号
氏 名

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

二 の 得 点

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

一 の 得 点

総 得 点